

○ 令和6年度モデル事業の実施状況（各項目の実施内容、有益な効果があった点、課題を記載）

患者・家族の相談支援窓口の設置	日本医科大学付属病院 (脳卒中・心臓病 区部)	榊原記念病院 (心臓病 多摩)	武蔵野赤十字病院 (脳卒中 多摩)	全体の実施状況 ※事務局にて記入
具体的な取組 ・相談対応 ・相談マニュアルの整備、 ・Q&A作成、 ・啓発資料作成	【実施内容】 ・相談業務は、脳卒中または心臓病に精通した看護師、医師、社会福祉士などが対応（電話やメールを用いて、院内に限らず、遠方からも相談を受付） ・令和6年6月～令和7年2月の9ヶ月間で、454件の相談に対応	【実施内容】 ・電話相談件数のカウントシステムを導入、電子カルテと連携。件数は月に1万件ほどで推移 ・ホームページ上に患者・家族からの「メール相談窓口」を設置。 ・相談フローを作成、メール相談の受付を開始。徐々に件数が増加。 ・Q&Aの整備は、よくある質問を体系的に整理、疾患別・項目別に分類。 ・相談窓口のQ&Aをホームページに掲載、内容を定期的に更新 ・相談窓口のポスター・チラシを作成し、登録医（約280名）や外部医療機関（約650機関）に配布 ・退院時の案内資料に「メール相談の案内」を追加	【実施内容】 ・電話自動音声案内による振り分け対応、WEB相談フォームからの問合せ対応。相談対応体制の整備 ・多摩地区全体でサポートするため、圏域ごと代表施設へ訪問し説明・相談窓口の設置等の協力を依頼した。（15施設） ・多摩地区相談実績の集約を実施（3/27通知予定）	【実施内容】 ○相談対応 ・3病院は、相談支援窓口を設置、各病院では精通している医療従事者が相談に対応 ○相談マニュアルの整備・Q&A作成 ・榊原は、相談フロー作成、Q&A作成の記載あり ○啓発資料作成 ・各病院の実績に記載なし
	【有益な効果があった点】 ・脳卒中の後遺症、再発予防、回復期リハビリテーション病院への転院相談のほかに、脳卒中後の外来リハビリについて、経済的な支援、行政による支援（障害者手帳の取得など）など多岐に亘る内容の相談もあった。 ・具体的なサービス・支援を紹介しそれぞれ地域のクリニック・行政に繋げることで患者さん・ご家族の困っていることの解消に寄与することができた。	【有益な効果があった点】 ・Q&Aの整備により、よくある質問に対する事前案内が可能、相談対応の負担が軽減 ・メール相談から、都内でかかりつけない患者から適切な外来受診や外来心臓リハ導入につながった症例が出ている。	【有益な効果があった点】 ・相談フォームからの質問は24時間受付可能 【課題】 ・常時相談対応のため、専従の人員が必要 ・対応範囲によって職種選定が必要（看護師又はMSWなど）。 ・多摩地区で当院以外の施設での相談対応は、各病院の総合的相談窓口対応に委ねざるをえない。	【有益な効果があった点】 ・日本医科大学付属病院 具体的なサービス・支援を紹介、地域のクリニック・行政に繋げることで、患者さん・ご家族の困っていることの解消に寄与 ・榊原記念病院 メール相談から、都内でかかりつけない患者から適切な外来受診や外来心臓リハ導入につながった症例あり
	【課題】 ・相談は当院へ通院、入院中の方（そのご家族）、などがほとんどであり、地域や広域への周知に課題	【課題】 ・相談件数が増加すると、対応の負担が大きい。 ・高齢者がメール相談を利用しにくい点への対策が必要 ・他院の治療への不満に関する相談が増加、セカンドオピニオンの適切な対応が求められる。		【課題】 ・相談件数増加による負担増加の懸念に対して、相談体制の構築について引き続き検討が必要

脳卒中・心臓病等総合支援センター事業について

○ 令和6年度モデル事業の実施状況（各項目の実施内容、課題、有益な効果があった事例を記載）

地域住民を対象とした循環器病について、予防に関する内容も含めた情報提供、普及啓発	日本医科大学付属病院（脳卒中・心臓病 区部）	榊原記念病院（心臓病 多摩）	武蔵野赤十字病院（脳卒中 多摩）	全体の実施状況 ※事務局にて記入
具体的な取組 ・啓発セミナー ・公開講座 ・親子教室	【実施内容】 ・脳卒中・心臓病患者さんとその家族のためのピアサロンを隔月で開催している。（年6回） ・ピアサロンでは、患者さんとその家族を対象に、「生活期のリハビリテーションについて」のミニレクチャーを開催した。 ・地域中核病院（花と森の東京病院）と連携し心臓病に関する市民向けの公開講座を実施（2025/3/1）	【実施内容】 ・市民向け啓発セミナー・公開講座 ・市民向けの「心臓を守る親子教室」を開催し、大盛況で終了 ・心臓病に関する市民向けの公開講座、料理教室・運動教室・薬に関する講演を実施（2024/10/12、2024/12/13、2025/01/18） ・広報活動 ・チラシやポスターを作成し、地域の病院・自治体・薬局などに設置 ・SNSを活用した広報も検討している。	【実施内容】 ・市民公開講座実施（令和6年11月30日） 3病院合同、都民対象、開催方法：対面 ・市民公開講座実施（令和7年3月1日） 多摩地区市民対象、開催方法：オンライン	【実施内容】 ○啓発セミナー、公開講座、親子教室 ・各病院にて、啓発セミナー、公開講座を実施。 ・3病院合同で公開講座を実施、 ・榊原では親子教室を実施
	【課題】 ・ピアサロン参加対象者が当院に通院している方、ご入院中の方（とご家族）、以前に入院歴のある方であり、地域や広域への周知が必要である。 ・ピアサロンでは患者さんとその家族に有益なテーマでミニレクチャーを継続的に実施する。	【有益な効果があった点】 ・親子教室の成功：多くの参加者を集め、アンケート結果より啓発効果が確認された。 ・運動教室の実施：参加者の評価が高く、特に実技指導が好評であった。	【有益な効果があった点】 ・市民公開講座における広報は効果があり当事業のPRにつながった。 ・開催前から、北多摩南部医療圏以外の医療圏からの反響が多かった。	【有益な効果があった点】 ・榊原記念病院 公開講座・親子教室の実施により、普及啓発の効果が確認できた。
		【課題】 ・イベントの周知方法の最適化が必要 ・高齢者向けの情報提供の工夫が求められる。	【課題】 ・多摩地区全体をカバーするためにはオンライン開催となるため、広報については行政機関の協力が必要である。またオンライン参加が難しい方へのサポートへの協力が必要	【課題】 ・事業を広く周知するための周知方法の検討が必要

脳卒中・心臓病等総合支援センター事業について

○ 令和6年度モデル事業の実施状況（各項目の実施内容、課題、有益な効果があった事例を記載）

地域の医療機関、 かかりつけ医を対象 とした研修会、勉強 会等の開催	日本医科大学付属病院 （脳卒中・心臓病 区部）	榊原記念病院 （心臓病 多摩）	武蔵野赤十字病院 （脳卒中 多摩）	全体の実施状況 ※事務局にて記入
具体的な取組 ・医療従事者を対象とする研修会・講演会 ・相談支援、啓発を効率的に行う資料の開発、提供 ・就業と療養の両立支援の普及活動 ・職能団体毎の連携体制の構築	【実施内容】 ・区中央部医療圏では大学病院8施設、基幹病院7施設の15病院の施設責任者の定期的会合を実施（8/21、9/26、11/5、2/18に開催） ・看護師、薬剤師、リハビリ部門、社会福祉士部門、栄養科の各職種責任者の代表者が連携できる体制を構築 ・区中央部脳卒中医療連携協議会と連携 ・東京都脳卒中急性期医療機関リストに記載の機関を対象にアンケート実施 ・リーフレット作成	【実施内容】 ・医療従事者向け研修会 ・心臓病両立支援セミナーを開催（事前登録120名、最終609名参加）。 ・本邦初の心臓病両立支援ネットワーク形成し、200名ほどの名簿を確保。 ・職能団体との連携 ・東京都医師会・看護協会など各職能団体に研修会の広報協力を依頼	【実施内容】 ・医療従事者対象の研修会・講演会は未実施。就業と療養の両立支援の普及活動も未実施	【実施内容】 ○医療従事者向け研修会・講演会 ・榊原では実施 ○資料の開発、提供 ・日本医大では、リーフレットを作成 ○就業と療養の両立支援の普及活動 ・榊原ではネットワーク構築を実施、セミナー開催 ○職能団体毎の連携体制の構築 ・日本医大では、区中央部の脳卒中医療連携協議会と連携
	【有益な効果があった点】 ・区中央部のネットワークが構築・強化され、多くの参加者から「事業の枠を超えた繋がりを持つことができた」との声が寄せられた。 ・リーフレットにより、医療従事者が脳卒中・心臓病支援事業や相談窓口を周知しやすくなったと好評だった。	【有益な効果があった点】 ・両立支援セミナーの成功：多数の参加があり、アンケート結果も99%から「よかった」と非常に好評。 ・本邦初の心臓病両立支援ネットワークを形成し、ニュース配信することができた。 ・両立支援セミナーを視聴した医療従事者の病院見学・研修の申し込みがあり、榊原記念病院にて2名を受け入れた。	【有益な効果があった点】 ・多摩地区医療機関・医師会・行政機関へリーフレットを配布し周知した。 ・東京都脳卒中連携事業での市民公開講座で、リーフレットを配布することで相談窓口の周知ができ相談が増えた印象あり。	
	【課題】 ・区中央部において、職種ごとの相談支援および両立支援に関する具体的な方策の決定 ・区中央部から他の医療圏への拡大	【課題】 ・両立支援の重要性が十分に浸透しておらず、普及活動の強化が必要	【課題】 ・就業と療養の両立支援の普及活動、職能団体毎の連携体制の構築は課題	
			【課題】 ・就業と療養の両立支援の今後の進め方について整理が必要 ・医療機関、関係団体との連携をどのように構築していくか検討が必要	

脳卒中・心臓病等総合支援センター事業について

○ 令和6年度モデル事業の実施状況（各項目の実施内容、課題、有益な効果があった事例を記載）

相談支援を効率的に行う、資材の開発、提供	日本医科大学付属病院（脳卒中・心臓病 区部）	榊原記念病院（心臓病 多摩）	武蔵野赤十字病院（脳卒中 多摩）	全体の実施状況 ※事務局にて記入
具体的な取組 ・案内パンフレット制作 ・その他具体的な取組	【実施内容】 ・3病院合同でホームページおよびパンフレットを作成し、配布。 ・東京都医師会会長と脳卒中・心臓病等総合支援センターと対談。（医師会雑誌に掲載、2024年(令和6年)11・12月合併号 第77巻 第10号(通巻750)）。 ・東京都主催の市民公開講座「脳卒中～大事なことは予防と早期治療～」に参加し、脳卒中予防の食事および治療法について講演(令和6年10月26日)	【実施内容】 ・案内パンフレット・広報資料の制作 ・相談窓口のパンフレット・ポスターを作成し、医療機関や自治体に配布。 ・3病院合同のホームページを制作し、運用開始。 ・東京都心臓病総合支援連絡協議会予備会を設立し、各病院との連携を強化し、二次医療圏施設への拡大を図った。	【実施内容】 ・3施設合同でパンフレット作成、ホームページ開設 ・当事業における院内体制構築のため多職種によるプロジェクトを立ち上げた。院内の相談体制を整備した。 ・多摩地区脳卒中施設による「多摩地区脳卒中総合支援事業連絡会」を開催(3/27開催)	【実施内容】 ○案内パンフレット制作 ・3病院は、広報用パンフレットを制作、ホームページ開設 ○その他具体的な取組 ・榊原では、東京都心臓病支援連絡協議会予備会を設立
	【有益な効果があった点】 ・ホームページやパンフレットの作成により、都民と医療従事者の脳卒中・心臓病等支援事業に対する周知、脳卒中・心臓病相談窓口の存在を広くアナウンスすることができた。 ・東京都や東京都医師会の主催の取り組みに積極的に関わる事で、連携が強化された。	【有益な効果があった点】 ・相談窓口の広報強化により、問い合わせ件数が増加。 ・二次医療圏施設による患者相談、市民公開講座の開催計画を促進した。	【有益な効果があった点】 ・医療機関・市民へのリーフレット配布により、当事業の認知度が上がった。	【有益な効果があった点】 ・3病院共通 相談窓口の広報強化により、問い合わせ件数が増加。 ・ホームページ、パンフレットの配布により、この事業の認知度が向上 ・日本医大・武蔵野赤十字東京都主催の市民公開講座「脳卒中～大事なことは予防と早期治療～」に参加し、脳卒中予防の食事および治療法について講演(令和6年10月26日)
	【課題】 ・次年度に向けて、ホームページやパンフレット、書籍等を活用した相談支援の改善効果について評価、継続的かつ定期的な取り組みの実施、さらにはSNS等への展開を課題として検討する。	【課題】 ・パンフレットの設置場所を院外にも検討する必要がある。	【課題】 ・相談窓口リーフレットの配布を継続する。市民の利用の仕方が定着し相談へつなげられれば良い。 ・啓蒙啓発のリーフレット等の最新情報を掲載したリーフレットの作成。	【課題】 ・パンフレットの配布、周知方法など広報の実施方法の検討が必要

脳卒中・心臓病等総合支援センター事業について

今後の進め方（案）

- 令和6年度厚生労働省モデル事業（3病院が採択）として実施、令和6年度事業実施内容を医療連携推進部に報告（3月）
- 令和7年度東京都事業として3病院に委託して実施
- 医療連携推進部会・相談支援情報提供部会（6月）に、令和6年度実施内容、事業評価検証を報告、協議会（7月）に事業評価案報告、討議（7月）
- 令和8年度以降の事業実施については、次回協議会（7月）において方向性について議論
- 医療連携推進部会、相談支援情報提供部会（来年1月）に、令和7年度実施内容を報告

